

白彊前進

NO. 5 平成30年6月28日(木)
附属新潟中学校 学校だより

※ 白彊前進…自ら努め励み、前に進むこと(校歌3番の文言から)

情報モラル講演会で語られたこと

6月27日(水)の6時間目に「情報モラル講演会」を開催しました。毎年この時期に開催している講演会ですが、今年度は、新潟県警察本部生活安全部少年課新潟少年サポートセンターの少年警察補導員様より講師を務めていただきました。「インターネットの危険性」と題された講演内容を、以下に要約して掲載します。もう一度、講演内容を確認し、各自の心に刻み込んでほしいと思います。



1 画像をやりとりしてしまったケース

- ・<被害>おだてられ、脅されて、つい裸の自撮り写真を相手に送ってしまった。(平成29年上半年期の児童ポルノ被害は1,142件と過去最高を記録)
- ・<被害>別れ話のもつれから相手に恨まれ、付き合っていた頃の写真をネット上にばらまかれてしまい、一生の傷を負った。(リベンジポルノ)
- ・<加害>送られてきた画像を許可なく勝手に送信し、拡散してしまった。
- ・<加害>ズボン下ろし動画を面白半分ネットにアップしてしまった。

◎以上のことは全て犯罪行為で、罪に問われる。共通しているのは、一旦流出してしまったデジタルデータは一生消せないということ。これをデジタルタトゥーと呼ぶ。

2 その他のケース

- ・<加害>人気漫画をネット上にアップロードしてしまった。映画館で映像を録画し、それをネット上にアップロードしてしまった。
- ・<被害>ジオタグ付きの「猫の写真」をツイッターの裏アカウントにアップロードしたところ、そこから住所、氏名、電話番号などを特定され、恐喝の被害に遭った。
- ・<被害>「お金が欲しい」とツイッター上に書き込んだことがきっかけで、性被害に遭った。
- ・<被害>SNS上で悩み相談にのってもらっているうちに「辛いよね」「君の気持ち分かるよ」などという甘い言葉にだまされ、相手のことを「世界一自分を理解してくれる人だ」と信じ込んでしまった。「これから迎えに行つてあげる」と誘われ、相手と会ったところ、家に監禁されてしまった。

◎これらのことも全て犯罪行為で、それぞれ重い罪に問われる。SNSの向こう側にはもちろんいい人もいるが、確実に悪人もいる。顔も見えない相手を、言葉だけで、簡単に信用してはいけない。悪人は相手をだます手段として「なりすまし」を使う。大人が子どものフリをする。男が女のフリをする。知らない人が友だちのフリをする。悪い人がいい人のフリをする。…それをあなたは見破ることができますか?なかなか見破ることができないのが現実です。思い込みはとても危険なのです!

3 「ほんの出来心」「単純なイタズラ」では済まないケース

- ・<加害>「駅のトイレに爆弾を仕掛けた」と、駅のホームページにイタズラで書き込んでしまった。→特定され、威力業務妨害で逮捕。罪に問われると共に、駅から多額の賠償金を請求された。
- ・<加害>スーパーの陳列ケースに寝そべり、その姿を写真に撮り、ネット上にアップロードしてしま

った。→本人は威力業務妨害で逮捕。スーパーは風評被害を受けて倒産。罪に問われると共に、店主から多額の賠償金を請求された。

◎イタズラ半分の言動であっても、ネット上に情報が流出すればそれはずっと残ってしまいます。いま、中学生であるあなたにも、やがて就職活動をしたり、結婚をしたりするときに訪れます。そのときに、人事担当者は、結婚する相手の親族は、ネット検索をかけて、過去のあなたの言動を確認します。その結果、過去の言動があなたの未来にブレーキをかけてしまうことも起こりうるのです。

4 たったワンクリックしただけで…

- ・<被害>公的機関を語って「違約金を支払え!」と請求された。
- ・<被害>「激安ブランド財布」をネットで申し込んで、お金を先に送ったが、品物が送られてこなかった。ウェブサイトも直後に閉鎖され、連絡すらできなくなった。
- ・<被害>送られてきたメールをクリックしたら画面がフリーズしてしまい、「修復するためには〇万円かかります」とお金を請求された。(ランサムウェア)

5 犯罪ではないものの…

- ・SNSに関わる通信機器が傍らにないと落ち着かない。…常に誰かにつながっていないと不安である。…自分が周りからどう見られているのか、どう評価されているのか、常に気になる。…オンラインゲームにのめり込み、昼夜逆転の生活となってしまった。このような症状を「ネット依存」という。ある調査によれば、若者の約3割が「自分はネット依存だ」と自覚しているようだ。
- ・ネット依存度が高い人は、生活習慣の乱れを生じ易い。犯罪に巻き込まれる危険性が高くなる。そして、一旦その状態に陥ってしまうと、元に戻るためには相当なエネルギーが必要となる。だから、そうならないことがなによりも重要なのです。
- ・ちなみに、ネット依存になりやすい人は、意志薄弱な人、心の中に不安感がある人です。

6 最後に…

- ・無限に広がるネットの世界の怖さを知りつつも、安全に便利さを享受してほしい。そのために、次の5箇条を心にとめて利用してください。
 - ① 個人情報をネット上にアップロードしない!
 - ② 利用時はフィルタリングを必ずかける!
 - ③ ネットで知り合った人と会わない!
 - ④ アプリやゲームのダウンロードに注意する!
 - ⑤ 困ったときにはすぐに大人に相談する!

以上、ご講演内容を紙面で再現しました。少年警察補導員様からは、本当に多くの事例を根拠に挙げていただき、丁寧に説いていただきました。すべてが新潟県内で起こった本当の出来事だと伺い、私たちの身近には、いかに危険が迫っているのかを実感しました。生徒のみなさんには、どうか学んだことを忘れずに、加害者にも、被害者にもならないように、気を付けて生活してほしいと思います。

最後に、生徒の感想(一部)を紹介します。

- 直接顔を見たり声を聴いたりできない分、いい人、悪い人の「なりすまし」が見抜けられない可能性があることが分かった。疑わなくてはならないのは嫌なことだが、自分の身を守るためには必要だと思った。
- 相手の画像が送られてきたとしても、それは嘘かもしれない。いくら信頼していても、自分の個人情報だけは絶対に教えてはならないと改めて思った。知らない人とネット上で話すことをしないようにします!
- SNSやネットの怖さを改めて感じた。私もSNS等をよく利用しているのだが、その中で頭では色々分かっていても、「これくらい大丈夫か?」とふと思ってしまうことがある。今回のことをしっかり思い出してSNS上のコミュニケーションは慎重に行つていきたないなと思った。
- 他人事ではないと感じた。見知らぬメールを開いたり、怪しいサイトを開いたりすると詐欺に遭ってしまうのでそういうことにならないよう注意してネットを使つていきたい。親にもすぐに相談したい。

保護者の皆様、SNS使用については是非、お子様とお家で話し合つてみてください。家庭では解決しづらいことがあれば、遠慮なく学校までご連絡ください。よろしくお願ひいたします。(文責:中村教頭)